

平成 25 年度 第 1 回精華町子どもの食のあり方懇談会 会議録

名 称	精華町子どもの食のあり方懇談会[平成 25 年度 第 1 回]	
開催年月日	平成 26 年 1 月 31 日 (金) 午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分	
開催場所	精華町立図書館 1 階 集会室 (精華町役場内)	
出席者名	委 員	(出席委員) 大谷貴美子、曾原肇、姫野良隆、瓦俊夫、北澤智、有城義浩 吉川博文、清水朝江、小田英美、森田理恵、
	保護者 代表	精北小学校保護者、川西小学校保護者、山田荘小学校保護者 東光小学校保護者、精華台小学校保護者 精華中学校保護者、精華南中学校保護者、精華西中学校保護者
	事務局	(事務局) 太田教育長、木原教育部長、永井総括指導主事、竹島学校教育課長 土井担当係長、下田栄養士
傍聴人	1 人	
配布資料	資料 1 精華町立中学校における学校給食の実施に関する基本的事項 資料 2 中学校給食実施検討委員会検討状況について 資料 3 精華町立中学校における学校給食の実施に向けて意見集約 資料 4 精華町立中学校における弁当等昼食実態調査について 資料 5 中学校給食実施までの補完施策の状況について 参考資料 ・食育だより 1 号、2 号 ・都道府県別学校給食実施状況 (公立中学校数)	
議事の概要	1 開会行事 (教育長挨拶) 2 議題 (1) 中学校給食について (2) 食育について 3 閉会	
会議の経過	別紙のとおり	

【平成 25 年度 第 1 回 懇談経過】

1. 開会

① 竹島学校教育課長の開会宣言の後、教育長の挨拶を行った。

教育長挨拶内容

おはようございます。本日は、平成 25 年度第 1 回「精華町子どもの食のあり方懇談会」にお集まりいただき、ありがとうございます。

昨年度 9 月 14 日に第 1 回を開催してから、全部で 5 回の食のあり方懇談会を開催いただき、精華町の子どもたちの食のあり方について幅広い見地からご意見をいただくと同時に、精華町の中学校給食のあり方についても協議していただきました。そして、2 月 15 日にその結果をまとめとしていただきました。精華町教育委員会としては、その報告を基に、精華町立中学校における学校給食の実施に向け、3 点の基本的事項を定めました。この 3 点の基本的事項を踏まえ、今年度は、主に中学校教諭を委員とした「中学校給食実施検討委員会」を設置し、実施に向けての課題の洗い出しと検討をしました。また、昨年夏には、基本的事項に対する意見募集を行ったところです。

本日の懇談会では、今年度の取組について報告をさせていただき、その中で検討委員会での検討事項を中心に皆様からご意見をいただきたいと思っております。その際には、町政全般の問題として、安全安心を最優先に町政展開をしており、特に精華中学校の改築、消防庁舎の建て替えなど大規模な事業があります。そのための財源的な問題もあるため、すぐに給食実施ということにならないこともあり、給食実施までの臨時的な対応策をどのようにするかについても検討をすすめていますので、その点についても後ほど、ご意見をいただきたいと思っております。

また、本日の懇談会には、たくさんの保護者の皆様のご意見を聞けるよう、各小中学校から保護者の代表として、1 名ずつ参加をお願いしております。本日は、保護者の視点からも貴重なご意見をいただき、本日の懇談会で出た意見を、また中学校給食検討委員会に返し、今後の検討に生かしていきたいと思っております。

2. 協議

配布資料についての説明を事務局から行った。

(会長)

事務局からの報告を踏まえ、各委員からの意見を聞く。

1. 中学校給食について

(会長)

○主に資料 2 の中学校給食実施上の課題を基に、8 項目それぞれの課題について協議を進める。まず、校時上の課題について意見はあるか。

(委員)

○中学校では、現在の弁当であっても部活動の時間確保と生徒間トラブルを避けるために、昼食時間として設けている時間は短く、食べる時間は 15 分くらいである。給食実施となれば、給食を実施されている他校に聞いても、給食時間の確保は必要である。現状を考えると、朝の始業時間を早めるか、

終わりの部活動を縮めるという形をとることになる。

(委員)

○昼休みを含めると25分くらいは確保しているが、1年生ではなかなか時間内に食べることが難しい。部活動については、冬時刻では、16時30分が終了時間になるので、部によっては、準備片付けを除くと活動時間が30分ほどになる。部活動の時間を短縮することが難しいとなると、朝の始業を早めることになるが、この場合、ご家庭でも家を出る時間が早くなるため、それだけ早く準備していただくことになる。職員の中でも家庭を持つ者にとっては、勤務時間が早まるので、厳しいところがあるのではないかと懸念するが、始業時間の調整で対応をしていかなければ、時間の確保は難しいのではないかと感じる。

(会長)

○生徒指導上の課題も含めてご意見はあるか。

(保護者)

○給食時の指導体制についての項目で、給食時間に担任がすぐクラスに行って指導できないとあるが、現在、弁当を食べるときに、先生が不在ということはあるのか。

→(委員) 学年で体制を組み、教室に必ず誰かが昼食指導に入るようにしているが、4時間目終了後、職員室に荷物を置き、昼食を持って教室に戻る間に、生徒たちが昼食準備に入っているという形になる時もある。

(保護者)

○中学校では教科担任制になるため、不在の時間帯ができるのはしかたがないと思うが、安全性の問題から心配である。

(会長)

○ある中学校では、4時間目担当の教師が配膳まで指導に付き、担任が来た時点で交代するというタイムラグがない方法をとっていた。教師の体制次第でタイムラグがおきないと思うので、その点についても工夫が必要である。時間短縮という点では、予算の関係もあると思うが、エレベーターを使用するというような工夫も必要になるのではないか。

(保護者)

○人数が少なかったので参考にならないかもしれないが、私も中学校の頃給食だった。中学生は小学生より体も大きく、小学校から給食をやっているため、小学校1年生より知識もある。私の学校は荒れていて、給食時間もぐちゃぐちゃであったが、1階から3階まで運んで、それなりに出来ていた。部活もやっていた。センター方式については、小、中とセンター方式であったために、それが給食と思っていた。温かいものを経験してきている子にとっては違和感があるかもしれないが、子どもは与えられたものは受け入れ、対応できるのではないか。ただ、精華西中学校については、人数が多いので、大変だとは思いますが、教師の方たちがここまで考えておられるのは、今の中学生ではできない

と感じておられるのか。中学生はもう少しできるのではないか。中学生はしっかりしているイメージがある。

(会長)

○給食実施している中学校を見ていると、30分から40分は必要である。もう一つの問題として、弁当昼食の中学校では、昼食時間が短いということで、食べる時間がないために小さい弁当を持ってきているようなこともある。

(委員)

○学校で中心となるのは教科指導であり、中学校では部活動指導もある。昼食時間は、多くの事業所では一般的には約1時間で、食べる時間は保証されているが、給食となれば、教師は給食指導も教育指導の一環となり、ゆっくり食べることができない。こういった状況も理解されたい。

(会長)

○給食自体の課題として何かあるか。

(保護者)

○健康安全上の課題のところ、アレルギーに対する対応に、まだまだ改善の余地があるのではないかと感じる。アレルギーの理解があるかないかで違ってくることも多く、小学校で今提供されている給食は完全給食といわれているが、まだ食べることのできない児童もいる。厚生労働省が出している「食物アレルギー栄養指導の手引き」でも、『保育所、幼稚園、学校における役割』から、対応のポイントとして、「1. 対応は医師の指示（生活管理指導表など）にもとづいて行う。2. 対応は安全面を重視して簡単・単純な方法から実践する。3. 対応はスタッフ全員で取り組み、スタッフ間、保護者、医療機関との連携を密にする。」とある。給食対応の基本的な考え方のところでは、「給食でも優先されるのは安全性であり、その次が多様性である。」とある。このことより、教師の負担軽減とともに、パブリックスペースにおいて、アレルギーがあるなしに関わらず、より多くの人ができるものを提供することにより安全のリスクが下がるのではないかと。たとえば、乳アレルギーの子どもについて、毎日の牛乳については仕方ないが、それ以外のメニューについて、乳がないメニューであれば、今日は乳があるかないかを考えなければいけない教師の負担もなく、安心を持って提供でき、今いる人、今の施設でできる方法で安全性を高めることができるのではないかとと思う。

(委員)

○本町において、アレルギーの対応としては「出さない」としている。保護者の方には、アレルギー用の献立表を配布して、前もって見ていただき、それを回収して、管理職、養護教諭、栄養教諭、給食室というところで見ている。

(保護者)

○毎日つく牛乳以外のメニューに関して、シンプルにならないか。給食対応の基本的考え方として「同じ原因食物でも患者によって食べられる範囲が異なるため、個別対応すると作業が煩雑となり、かえ

って事故の危険性が高まる。このリスク管理の観点から、園・学校対応は家庭での摂取状況と同等と考えることなく、「完全除去を基本」として作業を単純化し、安全性を担保する。」とある。

(委員)

○そのようなことができればよいが、限られた給食費の中で使える食材も限られている。また、その限られた中で、精華町としてできることはできる範囲でやっている。できない範囲の部分は、申し訳ないが、食べないという選択をしてもらっている。保護者の方からも、食べられる給食が増えたという意見も返ってきている。

(保護者)

○毎月、できるだけ多くのもを食べることができるように、工夫していただいているが、配布していただいている2月の献立表の中で、豆乳クリームシチューの欄に、「牛乳をつかっていません」と書いてある。乳アレルギーの子も食べられると思いがちだが、よく見るとバターは使われているので、乳アレルギーの子が食べると、アナフィラキシーショックを起こす可能性がある。この書き方では、様々な場面でチェックをする際に、安心して提供してしまう材料の一つになってしまう可能性がある。アレルギーについて理解度も人それぞれなので、バターの使用をマーガリンやオイルなど代用できるものがあれば、それに替えることで、より安全に提供できるのではないか。このことは、アレルギーをもつ児童を守るだけでなく、周りで食べている友達を守ることにもなる。また、見守ってくださっている先生方の負担を減らすことにもなるのではないか。

(委員)

○献立表の中での言葉は、行き届かない点があったかもしれないので、次回から改善をしていくこととするが、アレルギー児童に対しては、他にも詳細を記したものを渡しており、それらすべてにチェックをしている。乳アレルギーといっても牛乳は飲めないが、バターは大丈夫など、人によって症状も様々なため、保護者の判断で、食べるか食べないかを決めてもらえるような書き方になっている。また、バターを使用したルウについて、オイル等の代用でおいしくルウが作れるのかどうか、研究している段階である。風味などが必要とされるものは、バターを使用することになると思うが、バターを入れずにできるものであれば、やっていきたいと思っている。

(保護者)

○強いアレルギー症状を持っている児童は、お弁当をもってきているのか。

(委員)

○学校により状況は違うが、毎日お弁当を持ってきている児童や給食のメニューによってお弁当を持参している児童がいる。

(保護者)

○幸い、うちの子どもにはアレルギーがないが、もし、自分の子どもにアレルギーがあれば、神経質になって先生にも質問すると思う。しかし、アレルギーのことを先生方にお問い合わせすることは、他にも

多くの児童をみていかなければいけない先生にとって、負担になると思う。みんなが食べられるものを食べられないことはかわいそうではあるが、それは、他の子のせいでもなければ、その子のせいでもない。栄養の先生のせいでも担任の先生のせいでもない。だれのせいでもないことである。そうであれば、親と子がそれを理解して、コミュニケーションをとりながら親が子を守っていくしかないと思う。栄養士や学校側にやってもらいたいことを求めることは、無理なことであり大きな負担になるのではないか。

(会長)

○アレルギーについては、とても難しい問題であり、給食を安全に運営していく上で、中学校でも小学校でも考えていかなければいけない問題である。中学校給食実施に向けて考えていかなければいけない課題として、他にも多くのことがあるため、アレルギーについては、別の機会に協議を深めることとし、その他衛生上の課題等について意見はあるか。

(委員)

○中学校給食実施検討委員会の中でも、マスク、白衣については着用していくという方向性を出したが、生徒指導上の観点からいけば難しい。しかし、食の安心安全の観点からは必要なものである。他中学校の視察へ行ったときには、白衣、マスクの着用がない学校もあったが、精華町は3中学校で検討し、食の安心安全の観点から進めていきたい。

(会長)

○センター方式で、衛生管理の徹底した安全な給食が提供されたとしても、学校で衛生管理がされていない状態で配膳等行われたことで、昨今問題になっているノロウイルスの汚染を広げることにもなりかねない。食品の汚染はいろいろなところで起こりうるということを、実践を通じて学ぶことも食育の一貫である。給食時間の確保が難しい中での問題もあるかもしれないが、共通認識を持つことも大事である。

(保護者)

○小学校では1年生から6年間給食があり、そこでは台車で教室の前まで持ってきてもらっているが、中学生であれば、階段を使って運ぶのも難なくできるように思う。アレルギーに関しては、先生任せにしてしまうのではなく、親と子のコミュニケーション、また、先生と子とのコミュニケーションで安全に進めるしかないのではないかと思う。

(会長)

○施設整備上、給食費の課題について意見はあるか。

(委員)

○精華西中学校は教師を含めると800人ほどの人数である。この人数分の給食を置いておく配膳室はどうするのか、運んでくるトラックはどこを通過して入ってくるのかなどクラブ活動等との兼ね合いもあるので慎重な検討が必要である。また、給食を教室まで運ぶ際には、廊下が生徒で混雑すること

が予想されるため、その点についても動線をきちんと考えておく必要がある。

(保護者)

○うちはまだ小学校2年生だが、周りの母親たちから聞いた話では、中学校ではお弁当を持ってこられない子もいると聞いている。同じ部活、同じ勉強をする中で同じ給食を食べることはいいことだと思う。

(保護者)

○今の中学生を見ている中学校の先生方は、生徒たちが給食をきちんとできないのではないかと考えておられるのかもしれないが、小学校6年間できちんとやってきているので、動作は覚えている。お弁当を食べている中学生しかみていないので、無理だと思っておられるのかもしれないが、今の6年生をぜひ見てほしい。白衣の用意が大変であるという話もあったが、小学校はあたりまえにやっていることで、白衣を持ち帰って洗濯して、また学校へ持って行かすということは、親にとってもあたりまえのことである。中学校の先生は心配しすぎているのではないか。子どもたちをもっと信用してほしい。

(委員)

○昨年度の食のあり方懇談会から約1年ぶりにこのような場に参加させていただき、中学校給食の実施に向けて、少しずつ動いてもらっていると感じている。実施時期はまだはっきりしていないが、センターができるまでの対応について、検討していただき、パンの販売も始まった。お弁当を持ってこられない子に対してのパン販売ということであるが、うちの子に関しては、お弁当に加えてパンを買っているという状態である。親としては、お弁当の作れない日にパンを利用してほしいと思っているが、弁当は作ってほしいと言うので、斡旋弁当の方をもっと周知してもらえるよう働きかけてほしい。斡旋弁当の献立を個人に渡すなどの方法で知らせることで、好きなメニューの日などは利用が増えるかもしれない。利用が増えると、子どもも斡旋弁当を注文しやすくなるのではないか。

(会長)

○今、パンと斡旋弁当についての意見が出たが、他に補完的施策について意見はあるか。

(委員)

○精華南中学校では、12月17日からパン販売が始まり、今までで一日平均25人、一番多い日で51人、少ない日で6人の利用があった。今は13種類のパン販売を斡旋している。菓子パンは4割、調理パンが6割で栄養に配慮した購入をしている。パンの販売を開始する際、案内文書に「弁当を持ってこられない時に、利用するものであり、家に持ち帰ることや、友達に配ることは禁止する」等の注意書きを加えるべきか検討されたが、パンの販売については指導する分野としないこととし、細かい規制はせずに購入できるようにした。新しいことをする時は、どのようなことでも不安である。給食に関しては、何か間違ったことがあると命に関わることもあるので、他の指導とは次元の違う問題である。慎重に進めていかなければいけない問題として、中学校教師の中でも不安要素が多くある。検討委員会では、生徒指導上の課題など最悪の事態を想定し、このような事態が起きたときには、こ

のように対応していかなければいけないという形で検討がされ、出た結果が本日の報告にある「資料 2 中学校給食実施検討委員会検討状況について」の内容である。

(委員)

○精華西中学校では、パン販売初日 150 人の利用があり、パンの販売が間に合わず混乱したことはあったが、今は落ち着いている。朝、封筒に入れてお金を持って来るが、その際に、家から「今日もパンにして」と言われたと話す生徒もあり、その言葉の裏には母親の弁当が少し恋しいかなという様子も見られる。斡旋弁当に関しては、パンの販売が始まってからも決まった生徒ではあるが、以前と変わらない数の購入がある。

(委員)

○精華中学校では、以前からパンの販売をおこなっている。パン業者が変わってからおいしくなったということで、利用する生徒が増えたが、パンを購入する生徒のほとんどが弁当も持ってきている。本校では、前もって注文をとることはなく、昼食時間にパン業者がきて、生徒たちが並ぶという方法をとっているため、時には売り切れで教師が近くのお店にパンを買いに行くこともある。弁当を持って来ることができない状態が続くという家庭はない。斡旋弁当については、時々注文はあるが、あったとしても少数である。

(会長)

○斡旋弁当について、前もってメニューがわかると嬉しいという意見があったが、ひな弁当やハロウィン弁当などおいしそうなメニューを見ると注文数が増えるということは他でも聞く。斡旋弁当の利用が増えることがいいというわけではないが、ただ献立が書いてあるだけでなく、メニューに工夫のあるものであれば、保護者や子どもの見る目も変わるのではないかと思う。

(会長)

○パンの販売については、どの学校においてもそれなりの機能を果たしており、成果が上がっていると思うが、飲み物についてはどうしているのか。

→(委員) 精華中学校は、パン業者が牛乳とお茶の販売をしている。

(委員) 精華南中学校は、飲み物の販売はないので、生徒が自分で飲み物を持参する。

(保護者)

○精華西中学校は人数が多く、給食を配膳するのは大変だと思う。精華台小学校も規模の大きな学校だが、教室がまとまっており配膳がしやすい。精華西中学校は教室が離れているため、30分くらいの短い時間でできるのか心配である。中学生の子どもも「給食は無理だ」と言うくらい時間がない。白衣やマスクの着用についても、小学校でできているので、中学校でもできるのではないかという意見が出たが、素直な小学生とは違い、反抗期を迎えた今の中学生では難しいと感じる。中学校の先生方が、このように心配されるのもよくわかる。今の指導だけでも大変であるのに、この上給食指導もしていただくのは、申し訳ないと思う。給食施設について、学校内に給食室を作る案があるということを知ったが、今でも自転車置き場に置ききれず、自転車があふれている状態であるのに、この敷地

のない状態で給食室を建てるより、自転車置き場を増やすことが先ではないか。もう少ししたら、人数も落ち着くのかもしれないが、今の状態では難しいと思う。財政上、今すぐに給食を実施するのは難しいということであるので、急いで給食を実施して失敗があるよりは、今は実施に向けて時間をかけて検討してほしい。

(保護者)

○あわてて給食を進めなくても時間をかけてゆっくり検討してもいいのではないか。周りの子どもの意見を聞くと給食には反対である。給食の実施は親のエゴの部分もあるのではないか。働く親が増え、家庭環境や社会の流れに対応していかなければいけないのかという思いもあるが、一番大事なことは安全性なので、これをクリアするためにも時間をかけるべきである。あわてて実施をして、始まってから取り返しのつかないことになってはいけない。パンの販売については喜んでおり、週に1回はパンにしたいといっている子もいる。今はパンの販売と斡旋弁当の補完的施策で各家庭では対応できているのではないか。

(保護者)

○3人の子どもがいるが、卒業した上の子たちはなぜ給食をするのかと言っている。先生方の話にもあったが、部活もしたい給食もしたいとなれば、時間の確保をどうするかが問題になる。今はスープポットというものがあり、温かいものを持たせることができるので、それとパンを昼食にさせることもできている。環境によっては難しい家庭もあるかもしれないが、パンの販売と斡旋弁当で何とか対応できている家庭が多いと思うので、ゆっくり考えていただきたいと思う。

(会長)

○小学校、中学校の保護者の方から多くの意見をいただきありがとうございました。やるからには徹底していいものを作り上げてほしいと思う。財政上厳しいということもあるので、よく議論をしてみんなが納得できる方向で今後とも検討していきたい。

2. 食育推進について

(会長)

○栄養教諭未配置校の学校に栄養士の配置が始まったということであるが、どうであるか。

(委員)

○東光小学校では、10月から週に2回、栄養職員の先生に来てもらっている。主に、給食時間に教室を回って子どもと一緒に給食を食べたり、食材について説明をしてもらったりしている。今まで担任がやっていたことではあるが、専門的な立場からお話をしていただくと、子どもたちにも響くものがあり、楽しく食べることができている。中学校給食が実施されれば、小学校から9年間を継続してみることが大事である。小学校ではできていることが中学校でもできるという簡単なものではない発達段階の難しさ、今後施設を作っていく上での難しさもあるが、大事にしていかなければならないことは、小学校から連続して食育をしていくことである。子どもたちが将来を思い描く時、健康でやりたいことができるというのは、誰もが持っている夢であり、それに向かっていくためには、健康な体

が大事である。そして、健康であるためには、食が大きく関係している。これは小さい子でも説明すればわかることである。そのことから、自分の将来を思い描く時、子どもの頃から食についてどのような姿勢でいるべきかを発達段階に応じて学ぶことが必要である。その中で食の安全について学ぶこともある。中学生になって、衛生的に給食が実施されないのではないかという心配もあるかもしれないが、小さい頃からの積み重ねで、必要なことがわかるようになることもある。小学校の頃から、中学校3年間を見通して食育を推進していくことが、給食指導にもつながるのではないか。理想論であるかもしれないが、そのような思いを持って食育を継続させていく必要があると考える。

(委員)

○小学校では食育が進んでいると思っている。食について、学校内では栄養教諭や担任、給食の中で指導をしており、子どもたちの意識も高くなっている。さらに、家庭や地域との連携も大事である。保護者も意識が高くなってきているため、食について、栄養バランスについて話をしてもらっている。中学校では、さらに意識が高まるような指導をする必要がある。今の小学生を見ていると、ほとんどの子が給食はおいしいと言っている。献立作成時には、地産地消を始め、様々な取組みをしていただいている。中学校給食が始まっても、安心安全が第一であるが、その上でおいしいと感ずることが基本である。

(委員)

○料理教室で作った料理を家でも挑戦しているが、大変時間がかかり、栄養バランスを考えて作ることや、食事を衛生的に提供することなど、食事作りの大変さが改めてわかった。給食が実施されれば、弁当作りの時間を、子どもとのふれあいの時間に使うことができると感じている一方、社会教育においても家庭教育の大切さが指摘されており、保護者の多くも家庭の教育が低下している。共働きの親が増え、家庭で子どもに関わる時間が少なくなっているため、弁当作りが無くなれば時間的に助かる家庭も多い反面、給食で子どもが栄養バランスのとれた食事をしているということで、朝、夕の食事がおろそかになってしまうことが懸念される。給食の実施によるプラス面とマイナス面を考え、給食が実施されるまでの間、家族で家庭教育や食育についても考える必要がある。コミュニケーション不足が叫ばれる中、親子が手作りの食事を通して家族のコミュニケーションをさらに深めることができればと思う。

(委員)

○3人の子育てをしてきたが、保護者の方の意見を聞かせていただき、参考になった。今は地域で伝統食についてなど学んでいる。40歳の息子が嫁に「おふくろの味がつくれないか」と尋ねることがある。給食だけで食育はできない。朝食、夕食を家族で食べながら家庭の味を残していくことが大事である。家庭、地域が一体になって本当の意味での食育が成り立つのではないか。食生活改善委員会としても、様々な場面で子どもたちと一緒に勉強していくとともに、今後、時間をかけて、安心安全な給食の実施ができるよう力添えをしていきたい。

(会長)

○子どもは家庭において、言葉よりも日常生活の親の行動を見て学ぶことが多い。大学生の中でも、

「かんぴょう」を知らない、干しいたけを戻すことも理解できていない子がいる。経験として身につけていない部分がある。コミュニケーション力が弱く、毎年、入学してくる学生25人のクラスに心の病をかかえるものが1人か2人いる。また、保育園で咀嚼力をはかった際にも、半数の児童の咀嚼力が弱く、その子たちは姿勢が悪く、発音が悪いという現状があった。小学校卒業の12歳までの食事回数をみると、全体の8%が給食で、92%が家庭である。このことから、基本的な食習慣、食嗜好はほぼ家庭がつくりあげるものである。食に関して色々な引出しを作っておくことが親の役割で、学校教育では知識や技術を学び、その中で引出しの中身を替え、組合せを変える力を身に付けるのが学校の役割ではないか。今、この食事のベースが崩れていることが問題である。大学生の中にもコミュニケーションがとれず、トイレで食事をしたり、食堂に1人で食べるスペースができていところもあるほど、共食ができない子どもが増えている。一生健康に生きていくための食の自立を考えると、幼稚園、保育園、小学校だけでなく、小、中、高一貫した食教育が大切である。栄養士が新たに加わったことも素晴らしいが、家庭科教師、養護教諭も関わっていくことで、学校現場も変わっていくと思う。精華町は、親の教育レベルも高く、意識も高い地域であると感じている。今後も精華町らしいすばらしい食育を展開して行ってほしい。そして、中学校給食については、焦らずにしっかりと時間をかけて進めていきたいと考えているので、今後とも協力をお願いしたい。

3. 閉会

学校教育課長

8校から保護者の方に参加していただき、有意義な協議ができた。行政としては、基本的事項に沿った形で中学校給食を実施していきたい。全国の中学校給食実施状況を見ると、京都府は実施率の低いところにあるが、本日の懇談会でもあったように、やるからには、安全面等しっかり検討した上でよりよい給食を実施したい。今後、検討委員会では行政が考えるべき課題と学校で考える課題があるが、教職員の認識を深めながら進めていき、精華町として恥ずかしくない給食、自信をもてる給食を実施していきたいと考えているので、時間をいただくことになるが引き続き検討していきたい。アレルギーに関しては、大切なことであるため、中学校給食実施の際には、小学校給食でも一歩前進するような施策ができるように、合わせて協議をしていきたい。本日の懇談会でいただいた意見は、中学校給食検討委員会で報告をさせていただき、更に検討を深めていきたい。